

三島村を地域活性化するためには

人文社会科学研究科修士一年

1 1 1 6 8 4 0 0 2 3

丸山麻子

① はじめに

本稿では、7月3日、4日に視察に行った硫黄島を元に三島村が地域活性化するためのプランを提言する。硫黄島とは三島村を構成する島のうちの1つである。人口は、128人で、三島村全体では378人の島だ。私は、この島に来る前に、村の「まち・ひと・しごと創生プラン」で、2020年までに3島全体として400人、さらに2050年までに500人の人口にするという目標をみていたので、どのようにしたらそれが実行できるのかが関心があった。1995年から男性の数と女性の数と比較しても男性のほうが多く、人口維持のためには女性が多くないといけないという講義で習ったことも念頭にあったので女性が活躍できるためという視点もあったことを付け加えておく。

② なぜ地域活性化が必要なのか

昨今、日本のあらゆるところで少子高齢化の現象が起きている中で、地域活性化の必要性が叫ばれている。消滅可能都市に認定された地域も少なくはない。総務省においては、そうした地域で必要なリーダー、即ち地域活性化に必要な人材（よそ者、ばか者、わか者）として地域おこし協力隊制度を作り、その制度を積極的に利用している地域も多い。ゆるキャラをはじめとする地域活性化の施作や先述のように地域おこし協力隊など人材を登用して地域を活性化する理由はなにか。これに対する答えは沢山考えることができようが、その一つとして、少子高齢化社会で人口減少していく中で、地域の良さを維持していくために地域活性化は必要であるのではないかと考えている。

今回、講義で訪れた硫黄島においても、無数の手つかずの自然を見ることができ、火山の恩恵を体感することができた。一方、人々の暮らしに目をやると、火山と共に生きている。火山の影響のために葉物野菜を育てることができなかつたり、買い物はインターネット販売等で週に三回来る船によって入手している暮らしである。島は人口が少なく、鹿児島市内のように役所に電話すれば企業がやるということもなく、住民の手作業によって村づくり、島づくりが行われている。三島村三島においては、産業はそれぞれの島によって異なるが、硫黄島に限って言えば、畜産や漁業に限られており、農業は全くできない。教育施設も中学校までしかなく、高等学校や専門学校進学のためには島を出ていく

必要がある。どれくらいの人が U ターンしてくるかは把握しきれていないが、この島においても人口減少におけるマイナス面はあると考える。美しい景観を保つために、それなりの人口は重要である。さらに言えば、インターネットで買い物をするのは便利であるが、地方を活性化するためには、地域内でお金の流れを作ることが特に欠かせない。というのも、地域の企業、産業を活性化することで、三島村に入る税収もあがるからである。現在の状況では、島外のものを購入するパターンが多いので、島のお金が外に出て行っている。外部にお金が出ていくということは、役場の税収が減るということで、ますます財政運営が厳しくなるといえよう。

それだから故に、私は雇用を生み、税収を増やし、その税収をもって、村の景観保護等をしていくために、三島村を地域活性化する必要性を感じる。

### ③ 三島村を地域活性化するための案

先ほど②なぜ地域活性化が必要なのかにおいて指摘した点を考慮に入れながら、また実際に視察し感じた点を踏まえながら、私なりに地域活性化するための案を提案していきたい。

私が三島村を活性化するための案として挙げる案は以下の点である。

- 1 秘境の地として観光化する
- 2 IT 系のオフィスを創設する
- 3 保育施設を作る
- 4 大学との連携を行う

それぞれの点について今から詳細を述べていく。

#### 1 秘境の地として観光化する。

三島村には手つかずの自然が多く、私自身が大変魅了された。ここを沢山のの人に知ってもらいたいと鹿児島市内に戻ってきて感じ、SNS に投稿したり、友人と話ししたりしたが、一方では、現在屋久島にクルーズ船が来航することに対し、住民が難色を示しているように、現状の施設では観光客の受け皿が不十分なのと、なによりもこの三島村の景観の良さを失ってしまうのではないかと。そこで、私は、後者の懸念を払拭するために三島村を観光で訪問する際、できる限り村民の同行、或いは村や NPO 法人などが企画したツアーとして参加することが望ましいと考える。ツアーの内容としては三島村の自然を堪能できるものが良いだろう。天然温泉、断層、絶景、クジャク探し・・・列挙するとキリがないくらい三島村は自然の宝庫である。ここをアピールし、観光客に足を運んでもらうことで、お金を落としてもらおう。今現在の状況ではジオパークの看板が船着き場にはあったが、観光していく中では、案内板を見ることがなかった。

観光案内所も港から少し歩いたところにあったが、観光案内所があるとはすぐには気づきにくいのではないかと思う。ジオパークに認定された以上、その魅力を伝えていく人が必要だから、村民によるガイドツアー等をするためにも村民向けの勉強会もあると良いかもしれない。そうすればその講座を履修した村民は一定水準の知識を得ることができ、ガイドツアーとしてお金を取ることができる。島を観光化することは、入り組んだスケジュールではない、島の時間で動く旅行では、常に競争社会に生きている私たちに心のゆとりをもたらしてくれる。いわゆる箱物の観光地に疲れが来ている人や、純粹で感覚が鋭い人向けに秘境の地として売り出すことで、多数の人の目にきつと留まるはずだ。しかし今現在も、三島村はジオパークとしてアピールしているが、そのアピールはもっとやっていく必要があると考える。キャッチコピーが不十分だと思う。例えば、某島が、人より猫の数が多いことが話題になったが、それを参考に「日本一小さなジオパーク」、「クジャクがいる島硫黄島」等としてそのキャッチフレーズをより浸透していくことが大事である。観光客の受け入れ態勢としてもう1つ考慮にいれなければならないのが、島では農業ができておらず島民はインターネット販売に頼っているということだ。人口が増えたり、住民の暮らしを侵さない程度に観光客が増えればセスナに野菜を積んでくるというのも可能かもしれない。

## 2 IT系のオフィスを創設する

三島村の村民に聞くとインターネット完備は整っていると聞く。そうであるならば、三島村の豊かな自然の中で、時には海を眺めながら仕事ができることを売りに、ITの技術を持った人を呼び込むことを提案したい。個人でもできると思うが、サテライトオフィスを設置することも可能ではないかと考える。三島村の雄大な自然の中に大きな工場などを持つと景観を損なわれかねないが、個人宅でも出来る仕事であればそのような心配もいらない。個人企業であると、消費税からの収入は国との配分である程度は見込めても、法人税を徴収することは難しい。しかし、村に移住してくる人が増えることで、村民税の収入がある。また、IT系に関連していうと、島の土産物屋さんで販売している商品をインターネット上で販売していくことも良いのかもしれない。単品で売ると送料の方がかかるという場合には、ある程度まとめて作って、雑貨屋さんへ卸すなどすれば良いのかもしれない。

## 3 保育施設を作る

現在、黒島には保育施設がある。村民にはやるべき沢山の奉仕作業があるので、保育施設の完備は欠かせない。また、このレポートで述べた仕事を求めて移住してくる人々や、観光業を行って行く人のためにも、必要である。保育施設の問題は、この島に限らず、日本の都心部では大きな問題となっている。島に行くまでは、私自身、地域で子供を育てる余裕があるのかと思っていたが、確かにそうは言うものの、村人たちはやるべき仕事が多く、保育施設も必要ではないかと感じた。

#### 4 大学と連携する

村民の一人に村における食生活について聞いた。葉物野菜を食べることができないとその人は話していた。それを聞いて、光と水と栄養だけで育てる栽培があったことを思い出したが、農学部の院生からいろいろ教えてもらう中で費用の面等の観点を教えてもらった。そこで、思ったのが、大学と連携すれば何かできるのかもしれないと思った。最近でこそ、地方創生が叫ばれ続けているので、学生の中でも過疎地域に目を向ける人が増えたが、島の暮らしはまだまだそこまで行っていないように思える。村民の人々と大学の様々な学部の研究者や学生らとのミーティングをする中で、もしかしたら村民が抱えている問題を解決する案がでてくるのではないか。

#### ④ おわりに

今回、三島村の視察は大変貴重なものであった。

山本先生、高宮先生、大岩根さん、三島村のお世話になった方々全てに感謝する。